

提 案 概 要

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 家庭部会

1 提案テーマ 『 家族の一員として生活をよりよくする 実践的な態度の育成を目指して 』

2 単元(題材) 工夫しよう 暖かな生活

3 学年 第6学年

4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 2年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫
- ・実践的・体験的な活動、問題解決的な学習、言語活動の充実を目指した学習指導の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第8節 家庭 第2 各学年の目標及び内容 [第5学年及び第6学年]

2 内容 C(1)ア及び(2)イに、A(3)イとD(2)アを関連させて

内容C(1)ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

(2)イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。

A(3)イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。

D(2)ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

6 実践に向けての課題意識

児童は「工夫しよう さわやかな生活」では、暑い夏を健康でさわやかに生活するにはどのようにすればよいかということを考え、通風や日差しを遮ることの有効性、うちわや打ち水などの昔から伝わる工夫を学んだ。また衣服の着方や手入れの仕方を知り、衣服を調節することで涼しさを感じることができた。エアコンだけに頼らず、自然を生活に活かしたり、自分なりに工夫したりすることが大切であるという意識が高まってきたように思う。

寒い季節を迎え、児童が登校時のまま室内でも防寒着などを着用していたり、肌着を着ないでトレーナーを着用したりしている姿を見かけることがある。また、室内を暖めるための暖房器具はエアコンが中心となり、電気エネルギーやCO₂削減への意識は高いとは言えない。これらのことは、家庭における意識の低さが起因していると考えられる。

そこで本題材では、冬の生活の問題点に目を向け、課題意識をもって調べたり実験したりして裏付けし、普段の生活で体感していることや、無意識に行ってきたことに意味があることに気付き、更なる自分の生活の工夫改善に取り組めるようにしたい。

7 実践の概要

- ・導入では冬を快適に過ごす工夫としてどんなことを行っているか自分の生活を振り返り、衣食住の項目ごとにその工夫にどんな価値があるのか検証した。
- ・衣生活に注目し、寒さを防ぐための暖かい着方を考えた。Tシャツ、フリース、トレーナー、セーター、重ね着(Tシャツ+トレーナー)を熱湯の入ったペットボトルに着せて、温度の下がり方の違いについて実験を行い、どのような着方をすると暖かさを感じることができるのかということ学んだ。
- ・日光の働きを学び、暖房器具を使い過ぎないことや照明器具の上手な使い方について考えた。

8 成果と課題

- ・子どもたちは、実験や話し合いを通して、自分の生活と結びつけながら考えることができた。
- ・これまで家庭で自然に行ってきたことに意味があったということや、少しの工夫をすることで寒い季節も快適に過ごすことができるということ学んだ。友達から学んだことを自分の生活に取り入れようとする意識が高まった。
- ・快適に過ごすための工夫について、生活を振り返ったり、実験や話し合いをしたりしながら学習を深めていったが、その中で、なぜその工夫がいいのかということについて、自分の言葉で十分に表現することが難しい児童もいた。
- ・実験結果をもとに、日常生活での工夫の根拠について理解することができた。今回学んだことを家庭生活につなげ、継続させていくことが課題である。

9 予想される協議の柱

- ・言語活動の充実を目指した学習指導の工夫について
- ・実践力をはぐくむための体験活動の工夫について